

# 厚生労働省班会議「小児期からの希少難治性消化管疾患の移行期を包含するガイドラインの確立に関する研究」

## 第5回 先天性吸収不全症グループ会議

日時：平成27年4月18日（土） 18:30～20:00

場所：中之島センター

### 議事

#### 1. 症例の集計

1) 一次調査の追加報告の確認と集計

2) 一次調査回収率

#### 2. 二次調査票のための診断の手引き

症候と診断：

疾患別に小児慢性特定疾患（小慢web）、または難病情報センターHPなどより入手可能な「診断基準」または「手引き」を利用した様式を用意し、それぞれに添付する。

#### 3. 二次調査票の共通項目と様式について

・患者プロフィール項目追加：

発症時年齢、初発症状、確診・疑診

・治療：

疾患別に主な治療薬、治療法を列挙し、チェックボックスを利用して回答してもらいやすい様式を用意する

・補助栄養療法（PN, EN）：

経腸栄養（EN）の種類として、「経口、経管（経鼻、胃瘻、小腸瘻）」を選択するよう項目を追加する

・転帰：

入院、在宅、就学（普通学級、特別支援学級、特別支援学校）、就労、および思春期の発来などについての記載欄を作成する。

#### 4. 今後の予定

1) 二次調査票の発送、回収について

2) システマティックレビューに向けて  
MINDS 講習（6月14日）

3) 次回（第6回）グループ会議

\*\*\*\*\*

【2014年度報告書作成時点でのデータ】

1) 回収率

小児科関連 610 施設、小児外科関連 98 施設から  
それぞれ 407 施設 (66.7%)、61 施設 (62.2%) の回答を得た。

2) 症例数

乳児難治性下痢症	56 例
ミトコンドリア呼吸鎖異常症*	34 例
Shwachman-Diamond 症候群*	26 例
先天性クロール下痢症	20 例
原発性腸リンパ管拡張症*	15 例
多発性内分泌腺腫症*	14 例
IPEX 症候群・自己免疫性腸症*	7 例

果糖吸収不全症	5 例
先天性ナトリウム下痢症	4 例
先天性乳糖不耐症*	3 例
無βリポ蛋白血症**	2 例
VIP 産生腫瘍*	2 例
グルコース・ガラクトース吸収不全症*	2 例
微絨毛封入体病*	2 例
ショ糖・イソ麦芽糖分解酵素欠損症*	1 例
セリアック病	1 例
リパーゼ欠損症*	1 例
エンテロキナーゼ欠損症*	0 例
Tufting enteropathy	0 例

\*\*\*\*\*

\*小児慢性特定疾患疾病情報センター、または難病情報センターにあるもの

\*\*無βリポ蛋白血症に関して 2015 年 2 月 18 日 厚生科学審議会疾病対策部会指定難病検討委員会

・・・再検討となったのは脂質代謝異常の、レンチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症、シトステロール血症、タンジール病、家族性Ⅲ型高脂血症、原発性高カイロミクロン血症、脳髄黄色腫症、無βリポタンパク血症——の計 7 疾病。遺伝性で、根本的な治療法がない場合が多いが、食事療法が治療の中心で、脂質レベルの異常と発症が結びつかないこともあり、委員からは「難病に指定されるために、患者が治療を受けなくなってしまうことも考えられる」と指摘された。千葉委員長は「希少ということで検討対象に入ってくるが、生活に支障を来しているかという点で他の疾病と違う」として、厚労省側に新たな重症度分類などの再整理などを求めた。

【システマティックレビュー対象疾患】

乳児難治性下痢症	位田、新井
Shwachman-Diamond 症候群	工藤孝
ミトコンドリア呼吸鎖異常症	虫明、工藤豊、(村山圭)
原発性リンパ管拡張症	土岐、永田
先天性クロール下痢症	牛島、柳
多発性内分泌腺腫症	米倉、石井
IPEX 症候群・自己免疫性腸症	新井、(窪田満)

# 厚生労働省班会議「小児期からの希少難治性消化管疾患の移行期を包含するガイドラインの確立に関する研究」

## 第6回 先天性吸収不全症グループ会議 議事録

日時：平成27年8月2日（土）10:00～11:00（全体会議事前打ち合わせ）

13:30～15:00（グループ会議）

場所：聖路加国際病院

出席者：幾瀬 圭、石井智浩、位田忍、牛島高介、工藤孝広、工藤豊一郎、土岐彰、友政剛、永田公二、藤井善充、虫明聡太郎、米倉竹夫、河合富士美

### 【議事】

#### 1. 一次調査の追加報告の確認と集計について

位田先生より前回（4月18日）以降に追加収集された一次調査結果について報告があった。

小児内科系の回収率は431/518施設（83%）、外科系は71/98施設（72%）であった。なお、外科系からの未回答施設に比較的規模の大きい医療機関が含まれているため、今後それらの施設担当者に対して、症例の有無を再度問い合わせ確認することとした。

#### 2. 二次調査票

二次調査票のうち、共通様式と、二次調査対象7疾患について診断の手引きと二次調査票案のチェックを行った。

これらについては、疾患別調査表のうち疾患特異的項目（主に治療に関する）を共通様式へ移管してこれを統合し、それぞれ疾患個別の様式を作成することとした。

→ なお、2週間で疾患特異的項目をリストアップして虫明まで提出していただくこととした。

#### 3. 診療ガイドライン作成、システマティックレビュープロセスについて

午後のグループ会議より、河合先生、藤井先生に加わっていただいたの討議を行い、下記の方針をもって今後の作業に進むこととした。

1) 【吸収不全 malabsorption or 下痢 diarrhea】を第一義的検索用語とし、それに各疾患名を掛け合わせる形式で文献検索をそれぞれの疾患について行ってみる。

2) CQとアウトカムを疾患ごとに作成する（SCOPEに合わせて構成をそれぞれ考案する）

3) 集まったCQを可能な限り統合する（メール会議、または次回グループ会議で討議）

4) CQが決定してから正式な検索に入る（聖路加国際大学 河合先生に依頼）

#### 4. 今後の予定

・二次調査票発送は9月初旬に（母子センターより）

・11月下旬 コアメンバー会議

・12月中旬 研究班中間報告（これまでに二次調査の回収結果を報告できるようにする）

・次回（第7回）グループ会議について

平成27年10月16日（金）～18日（日）に行われる日本小児栄養消化器肝臓学会（広島）の会期中に設定する。

議事録作成：近畿大学医学部奈良病院小児科 虫明聡太郎

厚生労働省班会議「小児期からの希少難治性消化管疾患の移行期を包含するガイドラインの確立に関する研究」

第7回 先天性吸収不全症グループ会議 議事録

日時：平成27年10月18日（土） 20:00～

場所：広島国際会議場 地下2階会議室

出席者：新井勝大、幾瀬 圭、位田忍、牛島高介、工藤孝広、永田公二、藤井善充、虫明聡太郎、村山 圭、柳 忠宏

## 【議事】

### 1. 進捗状況

10月10日二次調査票発送

### 2. PICO, CQについて

・CQは「治療」を対象としたものに統一する。（いずれも希少疾患であり、各論的項目に個別にCQを立てても実質的にSR対象とならないと考えられるため、個々の治療薬や診断法に関しては対象としない。また、“予後”の因子はoutcomeに反映される。）

従って、7疾患全てで基本的に下記の形式のCQを立てることとする。

- ・「〇〇の予後改善に内科的治療は有効か」
- ・「〇〇の予後改善に外科的治療は有効か」（外科手術対象となるもの）
- ・Patient, Problem, Population
  - ・“その他”で、腸リンパ管拡張症では「続発性-」を除外する、SDSでは「血液疾患の合併を除外する」など、必要な場合は“P”の項で検索対象の指定を加える。
- ・Intervention/Comparison, Controls
  - ・内科（外科）的治療あり／内科（外科）的治療なし
- ・Outcomeは下記の項目を基本パターンとする
  - ・「生」（益）
  - ・「死」（害）
  - ・「下痢の改善」（消化器症状の改善）（益）
  - ・「下痢の遷延」（消化器症状の遷延）（害）
  - ・「静脈栄養の離脱」（または「-に依存しない」）（益）
  - ・「静脈栄養への依存」（害）
  - ・「成長障害」（害）
  - ・「発達障害」（害）
- ・その他、SDSでは“P その他”で「血液疾患の合併を除外する」など、必要な場合は“P”の項で検索対象の指定を加える。
- ・PICOは日本語で作成して良い

- ・作成した PICO/CQ に基づいて、聖路加国際大 河合先生に検索を依頼する。
- ・恐らく、どの疾患でも RCT などエビデンスレベルの高い文献はほとんど上がらず、数も限られていると予想される。この場合もそれぞれに対象文献の内容の確認と評価を行って、ガイドライン作成のためのバックボーンとする。
- ・さらに今後回収する二次調査の結果を踏まえて、正式な SR 対象とならないものもいわゆる “expert opinion” の形式でガイドラインを作成、提案する。

#### 4. メーリングリスト

永田先生に、田口班 ML の傘下に「先天性吸収不全症 ML」を作ってください、今後はこれを利用する。

#### 5. 今後の予定

- ・ 11 月 23 日（日） 田口班コアメンバー会議
- ・ 12 月 6 日（日） 第 8 回当グループ会議（仁尾班会議終了後）
- ・ 12 月中（日時未定） 田口班中間報告会議

#### 【システマティックレビュー対象疾患】

乳児難治性下痢症	位田、新井
Shwachman-Diamond 症候群	工藤孝
ミトコンドリア呼吸鎖異常症	虫明、工藤豊、(村山圭)
原発性リンパ管拡張症	土岐、永田
先天性クロール下痢症	牛島、柳
多発性内分泌腺腫症	米倉、石井
IPEX 症候群・自己免疫性腸症	新井、(窪田満)

厚生労働省班会議「小児期からの希少難治性消化管疾患の移行期を包含するガイドラインの確立に関する研究」

第8回 先天性吸収不全症グループ会議 議事録

日時：平成27年12月6日（日） 15:00～17:00

場所：コンベンションルーム AP品川 10階 Fルーム

出席者：新井勝大、幾瀬 圭、位田忍、河合富士美、工藤孝広、工藤豊一郎、田口智章、土岐 彰、永田公二、藤井善充、虫明聡太郎

\*\*\*\*\*

1) 進捗状況の報告（位田、虫明）

二次調査票の回収状況を含め、11月23日に開催された田口班コアメンバー会議での報告スライドを改訂したものを呈示して報告した（メール添付）。

なお、中間報告書作のコンテンツはこれに二次調査票の様式を加えたものとする。

2) 各疾患における PICO, CQ についての各論的検討

MRCD 腸症（虫明）、SDS（工藤孝、幾瀬）、IPEX（新井）、腸リンパ管拡張症（永田、土岐）、乳児難治性下痢症（位田）各々で SR スクリーニング対象として考えられる検索語と予測される文献数について検討し、河合先生の助言を受けた。

【PICO, CQ 作成の要点】

- ・「〇〇の予後改善に内科的治療は有効か」
- ・「〇〇の予後改善に外科的治療は有効か」（外科手術対象となるもの）

上記形式を基本とする。ただし、内科的治療については必要に応じて個別の薬剤や治療法を" Intervention/Comparison, Controls"に組み入れて検索の項目とする。

文献検索は項目を細かく設定すると文献数が寡少となるため、適当数（200～400ぐらい？）となる条件設定で上がってくる文献をタイトルとアブストラクトレベルで一次スクリーニングし、上記 PICO, CQ に沿うものを対象に読み込むこととする。

例：Shwachman-Diamond 症候群の場合

PubMed で "Shwachman-Diamond" のみで 384 件、"+ diarrhea" で 16 件、"+ malabsorption" で 23 件、"+ pancreas" で 57 件。"+ treatment" を加えるとその半分程度となる。この場合は 384 件の文献の title と abstract を overview し、それらのうち“治療や吸収不良”に関連していると考えられる文献をピックアップする。二次スクリーニングでは、必要に応じて "human", "pediatric", "infant", "childhood", "congenital"などの要件を付与して行う。

聖路加国際大 河合先生への文献検索依頼に際しては、PICO, CQ とともに SCOPE の作成も必要。（SCOPE の作成例を永田先生にお送りいただく）

#### 4) 今後の予定

##### 【目標】

- 1) 来年9月の日本小児栄養消化器肝臓学会（つくば）においてシンポジウムを開催し、当グループのパブリックコメント発表の場とする。
- 2) 先天性吸収不全症グループでの総括を班研究結果として報告する。
- 3) 各疾患において、二次調査結果と文献検索をまとめてそれぞれ論文化する（投稿雑誌としては *Pediatric International* を想定）

##### 【作業予定】

- ・12月中旬までに7疾患各々の SCOPE, PICO, CQ を作成し、河合先生に提出する。
- ・12月内に検索結果を各疾患担当者に報告（一次スクリーニングの開始）  
一次スクリーニングに続いて二次スクリーニングを進める。
- ・3月13日(日) 午後 第9回グループ会議（コンベンションルーム AP 品川）  
ここまでに各々二次スクリーニングを終えておくようにし、この会議において SR レポート、解説・推奨文、草案の作成に向けたディスカッションを行う。
- ・4～6月：SR レポート、解説文、推奨文、草案作成
- ・9月16～18日の第43回日本小児栄養消化器肝臓学会（つくば）にて「先天性吸収不全症」に関するシンポジウムを開催する（要会長承認）。この発表と抄録をもって当研究班のパブリックコメントとし、それに対して学会の承認を得る。（演題登録締め切りまでにシンポジウムのコンテンツをある程度まとめておく必要あり。）

#### 5) その他

乳児難治性下痢症は今回の調査対象症例も71例と多く、調査とSRから診断・治療の指針を作成することの他に、成因不明の病態の解明の糸口が見つかるかもしれない。これについて、工藤豊一郎先生より、日本医療研究開発機構（AMED）の IRUD（Initiative on Rare and Undiagnosed Diseases: 未診断疾患イニシアチブ）について紹介があり、乳児難治性下痢症や腸リンパ管拡張症など病因・病態が miscellaneous で未解明な疾患の網羅的な原因遺伝子の解明や治療法開発に向けての活動を進める場となりうるとの情報提供があった。

以上 （文責 虫明聡太郎）

厚生労働省班会議「小児期からの希少難治性消化管疾患の移行期を包含するガイドラインの確立に関する研究」第9回 先天性吸収不全症グループ会議 議事録

日時：平成28年3月13日（日） 14:30～17:00

場所：コンベンションルーム AP 品川

出席者：幾瀬 圭、位田忍、牛島高介、河合富士美、土岐 彰、友政 剛、永田公二、藤井善充、虫明聡太郎、柳 忠宏

\*\*\*\*\*

### 1) 先天性吸収不全症全国二次調査の回収状況報告

【一次・二次調査回答状況】	一次	二次	除外
乳児難治性下痢症	53例	20例 (38%)	1例
ミトコンドリア呼吸鎖異常症	31例	12例 (39%)	3例
Shwachman-Diamond 症候群	30例	13例 (43%)	1例
先天性クローラ下痢症	17例	14例 (82%)	
原発性リンパ管拡張症	15例	8例 (53%)	
多発性内分泌腺腫症	9例	5例 (56%)	
IPEX 症候群・自己免疫性腸症	7例	2例 (29%)	

回答状況は上記の通りであり、本邦での各疾患の背景や特性を知るために各疾患で個別に問い合わせを行って回収率の向上を図ることとした。

### 2) 疾患別二次調査票（FileMaker Pro ファイル）の確認

回答を得られた二次調査票のデータを FileMaker Pro に入力したものを各疾患担当者に配布した。

### 3) 二次調査対象各疾患におけるシステムティック・レビューの進捗状況報告

各疾患担当者から、それぞれの進捗状況について下記の通り報告があった（発表順）。

- 1) MRCD 腸症（虫明委員）：二次スクリーニング終了。【SR レポートのまとめ】まで作成。
- 2) SDS（幾瀬委員）：二次スクリーニング終了。【SR レポートのまとめ】から【推奨文章案】まで作成。今後、「推奨の強さの呈示」、「解説」までの SR 作業完了を進める。
- 3) IPEX・自己免疫腸症（藤井委員）：二次スクリーニング中。論文のスクリーニングはほぼ完了しエビデンステーブルの作成段階。
- 4) CCD（柳、牛島）：二次スクリーニング中。

- 5) 乳児難治性下痢症（位田委員）：一次スクリーニング終了。
- 6) 腸リンパ管拡張症（永田委員、土岐委員）：二次スクリーニング中。
- 7) MEN（石井委員（欠席メール報告））：一次スクリーニング中。

上記のような状況であり、それぞれの疾患と CQ に対する考え方、今後の進め方について河合委員、友政委員からアドバイスを受けて討議した。

このうち SDS は 7 疾患中で最も進捗しており、エビデンスの量も比較的多いことから、それぞれの担当疾患の SR 作業を進める参考にできるよう、SDS で作成完了されたテンプレートを各メンバーにメール配布していただくこととなった。CCD も比較的エビデンス量が多く、CQ に対して NaCl の有効性と投与量についての推奨を呈示できる方向で検討中であった。なお、SDS と CCD については、それぞれ SR に基づくエビデンスの論文化を目指すことについて提案がなされた。

メタアナリシス可能な文献が皆無であった MRCD 腸症では、SR レポートにおいて「本 CQ は SR 可能な対象とは言えず、むしろ将来に向けた研究課題として取り組むべきものであると考えられる。」と結論づけた。

SR 対象として成立しがたい CQ についても SR を行ったこと自体に意義がある。また、“ガイドライン”の意義について、画一的にガイドライン作成を図ろうとする厚労省と Minds が本来目指しているガイドラインとの間に乖離がある。そのため、本グループで対象とする様な稀少疾患に関しての“ガイドライン化”について、Minds 側から厚労省に対して意見を述べていただく材料となるのではないかとの意見が交わされた。

#### 4) 第 4 次指定難病の追加要望疾患についての報告（虫明）

去る 2 月末に九州大学小児外科田口教授を通じて小慢事務局（国立成育医療センター）盛一享徳先生から指定難病の第 4 次選定に関するメール連絡があった（発信先は位田、米倉、虫明）。これに対して、虫明より別紙の通り回答した。

要旨としては、小慢委員会より消化器関連で第 4 次以降に難病指定の可能性のある疾患としてリストアップされていた 8 疾患（乳糖不耐症、ショ糖イソ麦芽糖分解酵素欠損症、先天性グルコース・ガラクトース吸収不良症、エンテロキナーゼ欠損症、アミラーゼ欠損症、リパーゼ欠損症、腸リンパ管拡張症）のうち、“腸リンパ管拡張症”を対象要望疾患とすること、および新たに“乳児難治性下痢症”を要望することを回答し、これら 2 疾患を「第 4 次指定難病追加要望疾患」として挙げていただくこととなった。事後となったがこれについて説明して報告し、出席者の了承を得た。

5) 今後の作業予定について

- a) 二次調査の再回収を進める（上述）
- b) 対象7疾患のSR完了（様式5-1【推奨文草案】までの作成）と各委員へのメール配信。メールの締め切りを5月9日(月)とする
- c) 推奨決定（各疾患別のCQと推奨文草案の配布と投票）を行う。なお、投票者は当先天性吸収不全症グループ会議の構成委員（SRチームを除く）とする。
- d) 9月16～18日に開催予定の日本小児栄養消化器肝臓学会（つくば）において1時間程度のシンポジウム、あるいは委員会レポート形式での発表をさせていただくよう学会長（筑波大学 須磨崎亮教授）に依頼する。また、運営委員会において当グループの活動を報告する。
- e) 6月上旬までに第10回グループ会議を開催する（日曜日なら品川、土曜日なら新大阪を予定）。この会議においてSRの総括を行い、9月16～18日に開催予定の日本小児栄養消化器肝臓学会（つくば）での発表内容について検討し、抄録案を作成する。
- f) 論文化について：3件の論文化を進める。SDS, CCDに関して日本小児科学会雑誌、または日本小児栄養消化器肝臓学会雑誌、先天性吸収不全症全国調査としての総括をPediatric Internationalへなど。
- g) その他：パブリックコメントは学会HPなどでのネット掲載で

6) その他

永田委員より本年3月末よりオランダロッテルダム エラスムス大学へ留学されるとのご報告とご挨拶をいただいた。

（文案 虫明聡太郎）

小児期からの希少難治性消化管疾患の移行期を包含する  
ガイドラインの確立に関する研究班

区分	氏名	所属等	職名
研究代表者	田口 智章	九州大学医学研究院・小児外科	教授
研究分担者	松藤 凡	聖路加国際大学・聖路加国際病院・小児外科	副院長
	位田 忍	地方独立法人大阪府立病院機構大阪府立母子保健総合医療センター・消化器・内分泌科	診療局長 (内科)
	牛島 高介	久留米大学医療センター・小児科	准教授
	川原 央好	浜松医科大学・小児外科	特任准教授
	中島 淳	横浜市立大学医学研究科・肝胆膵消化器病学教室	教授
	春間 賢	川崎医科大学・消化管内科	特任教授
	福土 審	東北大学大学院医学系研究科行動医学分野・東北大学病院心療内科	教授
	福澤 正洋	大阪府立母子保健総合医療センター・小児外科	総長
	窪田 昭男	和歌山県立医科大学外科学第2講座	学長特命教授
	漆原 直人	静岡県立こども病院・小児外科	外科系 診療部長 小児外科 診療科医長
	住田 互	あいち小児保健医療総合センター・小児外科	
	金森 豊	国立研究開発法人国立成育医療研究センター・臓器・運動器病態外科部・外科(小児外科学、消化管免疫学)	医長
	内田 恵一	三重大学医学部附属病院 医療福祉支援センター・小児外科	部長
	下島 直樹	慶應義塾大学医学部・小児外科	講師
	八木 実	久留米大学医学部外科学講座小児外科学部門	主任教授
	上野 滋	東海大学医学部・外科学系小児外科学	教授
	濱田 吉則	関西医科大学外科学講座小児外科	教授
	増本 幸二	筑波大学医学医療系・小児外科	教授
	山高 篤行	順天堂大学・小児外科	主任教授
	家入 里志	鹿児島大学・学術研究院医歯学域医学系・小児外科	教授
	仁尾 正記	東北大学大学院医学系研究科・小児外科学分野	教授
	菫澤 融司	杏林大学医学部・小児外科学	教授
	窪田 正幸	新潟大学・医歯学系小児外科学	教授
秋山 卓士	地方独立行政法人広島市立病院機構 広島市立広島市民病院・小児外科	小児外科主 任部長	
河野 美幸	金沢医科大学・小児外科	教授	
本多 昌平	北海道大学病院 消化器外科 I ・小児外科学	助教	
虫明 聡太郎	近畿大学医学部奈良病院・小児科	教授	
工藤 孝広	順天堂大学・小児科	准教授	
松井 陽	聖路加国際大学 看護学部・小児科学、小児肝臓学	特任教授	

区 分	氏 名	所 属 等	職 名
	新井 勝大	国立研究開発法人国立成育医療研究センター・器官病態系内科部・消化器科	医 長
	工藤 豊一郎	国立研究開発法人国立成育医療研究センター・器官病態系内科部・病態検査学	医 長
	米倉 竹夫	近畿大学医学部奈良病院・小児外科	教 授
	土岐 彰	昭和大学医学部 外科学講座小児外科学部門・小児外科学	教 授
	永田 公二	九州大学大学病院 総合周産期母子医療センター(新生児外科部門)・小児外科学	助 教
	田尻 達郎	京都府立医科大学小児外科	教 授
	臼井 規朗	大阪府立母子保健総合医療センター・小児外科	主任部長
	田村 正徳	埼玉医科大学総合医療センター小児科・新生児学	教 授
	左合 治彦	国立研究開発法人国立成育医療研究センター・周産期・母性診療センター・胎児医学・周産期医学・臨床遺伝学	センター長
	小野 滋	自治医科大学・小児外科	教 授
	米田 光宏	地方独立行政法人 大阪市民病院機構 大阪市立総合医療センター・小児外科	小児外科部長
	野坂 俊介	国立研究開発法人国立成育医療研究センター・放射線診療部・放射線診断科	部 長
	宗崎 良太	九州大学大学病院 先端医工学診療部・小児外科学	助 教
	藤野 明浩	慶應義塾大学医学部・小児外科	専任講師
	岩中 督	埼玉県立小児医療センター・小児外科	病院長
	森川 康英	慶應義塾大学医学部・小児外科	講 師
	小関 道夫	岐阜大学医学部附属病院小児科・小児科学(血液腫瘍学)	併任講師
	松岡 健太郎	国立研究開発法人国立成育医療研究センター・病理診断部病理診断科・小児周産期病理学(小児腫瘍、胎盤、腎臓)	医 長
	木下 義晶	九州大学大学病院・総合周産期母子医療センター(小児外科)	准教授
	尾花 和子	社会福祉法人恩賜財団母子愛育会 愛育病院(小児外科)	医 長
	北川 博昭	聖マリアンナ医科大学・外科学 小児外科	教 授
	前田 貢作	神戸大学大学院医学研究科・小児外科学	客員教授
	奥山 宏臣	大阪大学大学院医学系研究科・小児成育外科	教 授
	和田 基	東北大学大学院医学系研究科小児外科学分野・小児外科学	准教授
	上野 豪久	大阪大学大学院医学系研究科・小児成育外科	助 教
	古川 博之	旭川医科大学医学部外科学講座消化器病態外科学分野・消化器外科学	教 授
	上本 伸二	京都大学大学院医学研究科外科学講座肝胆膵・移植外科学分野・肝臓外科/肝臓移植・小腸移植/小児外科	教 授
	星野 健	慶應義塾大学医学部・小児外科	准教授
	阪本 靖介	熊本大学大学院・生命科学研究部 小児外科・移植外科	講 師
	中澤 温子	国立研究開発法人国立成育医療研究センター・病理診断部・小児病理学	非常勤

区 分	氏 名	所 属 等	職 名
	小田 義直	九州大学大学院医学研究院・腫瘍病理学	教 授
	村永 文学	鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 医療情報部・医療情報学	講 師
	北岡 有喜	独立行政法人国立病院機構 京都医療センター臨床研究センター・医療情報学・情報システム学・データベース工学・総合政策科学	部長/研究室長
	玉井 浩	大阪医科大学・小児科学	教 授
	黒田 達夫	慶應義塾大学医学部・小児外科	教 授
	藤井 喜充	名張市立病院・小児科	医 員
	山田 佳之	群馬県立小児医療センター、小児科学、アレルギー感染免疫学、臨床検査医学（群馬県立小児医療センター）	部 長
	澤口 聡子	国立保健医療科学院	統括研究官
	岡本 悦治	国立保健医療科学院	統括研究官
研究協力者	友政 剛	パルこどもクリニック	院 長
	渡邊 稔彦	国立成育医療研究センター臓器・運動器病態外科部・外科	医 師
	荒木 夕宇子	NEC 玉川健康管理センター	副センター長
	河合 富士美	聖路加国際大学学術情報センター	マネージャー・主任司書
	小林 弘幸	順天堂大学総合診療科・病院管理学研究室・漢方医学先端臨床センター	教 授
	寺脇 幹	埼玉医科大学小児外科	
	中目 和彦	鹿児島大学・学術研究院医歯学域医学系・小児外科	
	神保 教広	九州大学大学病院・小児外科	医 員
	小幡 聡	九州大学大学病院・小児外科	医 員
	深堀 優	久留米大学医学部外科学講座小児外科学部門	
	福岡 智哉	地方独立法人大阪府立病院機構大阪府立母子保健総合医療センター・消化器・内分泌科	
	大沼 真輔	地方独立法人大阪府立病院機構大阪府立母子保健総合医療センター・消化器・内分泌科	
	伊崎 智子	九州大学医学研究院・小児外科	助 教
	出家 亨一	東京大学・小児外科	助 教
	山田 洋平	慶應義塾大学医学部・外科学（小児）	助 教
	狩野 元宏	慶應義塾大学医学部・外科学（小児）	助 教
	高橋 信博	慶應義塾大学医学部・外科学（小児）	助 教
	高橋 健	国立研究開発法人国立成育医療研究センター・周産期・母性診療センター・胎児医学・周産期医学・臨床遺伝学	フェロー
	側島 久典	埼玉医科大学総合医療センター新生児部門	教 授
	文野 誠久	京都府立医科大学小児外科	学内講師
東 真弓	京都府立医科大学小児外科	助 教	
加藤 稲子	埼玉医科大学総合医療センター小児科	教 授	
難波 文彦	埼玉医科大学総合医療センター小児科・新生児学		

区 分	氏 名	所 属 等	職 名
	左 勝則	国立研究開発法人国立成育医療研究センター・周産期・母性診療センター・胎児医学・周産期医学・臨床遺伝学	フェロー
	杉浦 崇浩	静岡済生会総合病院 新生児科	
	江角 元史郎	九州大学大学病院・小児外科	助 教
	柳 忠宏	久留米大学・小児科	助 教
	神保 圭佑	順天堂大学・小児科	
	幾瀬 圭	順天堂大学・小児科	
	村山 圭	千葉県こども病院・代謝科	部 長
	石井 智浩	近畿大学医学部奈良病院・小児外科	
	曹 英樹	大阪府立母子保健総合医療センター・小児外科	
	岡島 英明	京都大学 肝胆膵・移植外科・小児外科	准 教 授
	小森 由宗	独立行政法人国立病院機構 京都医療センター臨床研究センター・医療情報学・情報システム学・データベース工学・総合政策科学	代理出席
	眞部 紀明	川崎医科大学 検査診断学（内視鏡・超音波）	医長（講師）
	義岡 孝子	国立研究開発法人国立成育医療研究センター・病理診断部・小児病理学	部 長
	三好 きな	九州大学大学病院・小児外科	助 教
	清水 隆弘	大阪府立母子保健総合医療センター小児外科	副 部 長
	松浦 俊治	九州大学医学研究院・小児外科学分野	講 師
	宮田 潤子	九州大学医学研究院・小児外科学分野	助 教
事 務 局		九州大学医学系学部等事務部学術協力課研究戦略係 〒812-8582 福岡県福岡市東区馬出3-1-1 TEL 092-642-6780 FAX 092-642-6776 e-mail ijksenryaku@jimu.kyushu-u.ac.jp	
経理事務担当者	豊福 宗良	九州大学医学系学部等事務部財務課経理第一係 TEL 092-642-6006 FAX 092-642-6022 e-mail ijzkeiril@jimu.kyushu-u.ac.jp	

